

令和7年度

学 校 経 営 方 針

文京区立本郷小学校

杉本 謙

令和7年度 学校経営方針

1 はじめに

◎本校の校訓 「挑戦 共感 飛躍」

挑戦する子供の育成

子供にとって受け身ではなく、「やってみたい、もっとがんばりたい」という課題意識をもって主体的に挑戦できる学習環境を整える。様々な学習活動で ICT 機器等を効果的に用いて、個別最適な学びと、協働的な学びを推進する。子供一人一人が粘り強く取り組み、達成感が得られるように、意図的・計画的な教育活動を作り上げる。

共感する子供の育成

困難な場面においても友達と協力して成し遂げる喜びを実感させる。課題を見いだして解決に向けて話し合う活動や実践を積み上げる中で、喜びや苦勞を分かち合い、相手のことを思いやる共感する心を育てる。協力することで、新たに友達のよさを発見し、相手の考えを謙虚に聞くことで価値観を広げ、豊かな心の成長を促す。

飛躍する子供の育成

日常の学習や行事を通して学んだことを新たな学習や下級生のために用いる。地域の活動に参加し、学校教育で学んだことを生かし、貢献する。受ける側から与える側に成長する。学校での学びが役に立つことを実感し、さらに挑戦しようとする意欲につながるようにする。

教職員一同は、これらの子供たちを育成する使命を心に留め、子供たちと共に成長していく。そして、ともに手を携えて『地域に愛され、子供を通わせたい魅力的な学校』へと歩みを進めていく。

2 目指す学校像

経営理念

『子供を笑顔にし、自立に導く学校』

- 子供…主体的に学び合い、認め合い、助け合う中で笑顔があふれる学校
 - ① 自分が自立に向かっていることが実感できる。
 - ② 授業が楽しく、よく分かり、毎日の進歩・向上が自覚できる。
 - ③ 生きるために必要な基礎的・基本的な学力、節度ある行動様式を身に付けることができる。
 - ④ 自分の思いや考えを周りに伝え、認められることで自分の力が存分に発揮できる。
 - ⑤ 仲のよい友達、何でも相談できる先生がいる。
 - ⑥ 清潔な環境で、安心して、安全に生活することができる。
 - ⑦ 思いやりのある言葉、元気な挨拶が交わされ、人と人との心の交流が実感できる。

- 保護者…安心して子供を預けられ、子供の成長を通して笑顔があふれる学校
 - ① 子供の自立に向けた良質な教育活動が行われている。
 - ② 子供をまるごと認め、励まし、支え、よさや可能性を伸ばしてくれる。
 - ③ いじめは絶対に許さないという学校風土がある。
 - ④ 安全が最優先された教育環境である。
 - ⑤ 教職員が礼儀正しく、仕事に情熱をもち、熱心に指導している。
 - ⑥ 保護者の思いや願いに共感し、ともに考えてくれる。
 - ⑦ 情報発信が適切且つ積極的に行われ、学校のことがよく分かる。

○ 地域…子供たちの姿を通して笑顔にあふれ、いつまでも関わり続けたいとなる学校

- ① 教育理念が明確で、教育活動が充実している。
- ② 子供や教職員が素直で明るく、さわやかな挨拶ができる。
- ③ 学校に活気があり、学校から新しい地域文化が創造されている実感がある。
- ④ 地域の声に誠実に対応し、地域と共に教育活動を進めている。
- ⑤ 地域行事に教職員が積極的に関わっている。

○ 教職員…子供たちの笑顔のために努力を惜しまず、力を発揮する学校

- ① 本郷小に所属していることが自慢であり、誇りに思うことができる。
- ② 子供のよさに気付けることが、教職員の最も重要な資質であることを理解している。
- ③ 日々の実践や学びを通して、自らの資質・能力の向上を図っている。
- ④ 『子供の自立』を目的として、自らの持ち味や専門性を出し合っている。また、教職員が相互のよさを認め合い、弱みは補い合って、親和的な集団を構成している。

3 学校教育目標

人間尊重の精神を基調に、心身ともに健康で、社会の変化に主体的に対応しながら個性を発揮し、未来を切り拓く人間性豊かな児童の育成を目指す。そのために、次の目指す児童像を設定する。

○よく考え すすんで学ぶ子 ○体をきたえ たくましい子 ◎助け合う やさしい子 (重点)

また、学校運営協議会を設置したコミュニティ・スクールとして、地域、保護者、学校の協働のもと、三者の力や思いを活かし、「助け合う やさしい子」を重点として、よりよい学校運営を目指す。

4 学校教育目標達成のための基本方針

(1) 人権尊重の教育

- ① 学校の教育活動全体を通して人権尊重の精神を培い、どの命も等しく大切にし、差別や偏見、いじめを許さない良好な人間関係を築くために主体的・協働的・創造的に行動できる児童を育成する。また、児童の多様性を尊重し、保護者や地域の人々とともに、いのちと心の教育を推進する。

(2) 豊かな心の育成

- ① 自己の価値を認識しつつ、他者と協働することの重要性を実感できる児童の育成を目指し、豊かな体験や多様な表現・鑑賞の場を設定するとともに、児童相互、児童と教師との望ましい人間関係を培う。
- ② SDGs の達成に向けた教育の考え方に立脚し、持続可能な社会の担い手を育成するため、ユネスコスクールとしての活動の充実を図る。地域協働の活動をとおして、郷土本郷、文京区に対する愛着や誇りを育むとともに、学校教育の目標を地域社会と共有・連携して実現する「社会に開かれた教育課程づくり」を進める。

(3) 確かな学力の育成

- ① 教員相互の学び合いによって授業力を高め、「主体的・対話的で深い学び」を実現する質の高い授業を通して、「知識・技能」の習得、「思考力・判断力・表現力等」の育成、「学びに向かう力・人間性等」の涵養を図る。
- ② ICT を適切な場面で活用した「課題発見・問題解決型の個別最適な学び」「対話的で協働的な学び」を意図的・計画的・系統的に実施し、情報モラルを含む「情報活用能力」を育成する教育を充実させる。
- ③ 全教育活動を通じ、学習の基盤となる資質・能力である言語能力、情報活用能力の確かな伸長を図る。

(4) 健やかな体の育成

- ① 運動の日常化を推進し、児童が生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現できるような力の育成を目指すとともに、体力テスト等のデータを基に、体育学習や保健学習、食育の一層の充実を図る。

(5) 特色ある学校づくり

- ① 文京区教育委員会コミュニティ・スクールとして、「社会に開かれた教育課程」の実現に向け、地域と連携した教育活動を展開し、人との関わりの中で、健やかな心及び学びを地域で生かす実践力を育む。
- ② ユネスコスクールとして、地域協働の活動をとおして、郷土本郷・文京を愛し、誇りとする心情を育むと共に、持続可能な社会の構築のために自ら進んで行動する実践力を養う。
- ③ 伝統文化体験等の豊かな体験活動やよりよく生きるための教養を身に付ける活動、地域連携の活動を『本郷オリジナルの教育』として位置付け、全学年を通じ意図的・計画的に推進する。
- ④ 児童を主体者とした授業を創造・展開し、児童が各教科の見方・考え方を働かせて問いを見出し、学習活動を自ら意味付け、自己の価値観を自覚したり他者と共有したりできるようにする。
- ⑤ 教師の専門性を生かした一部教科担任制を第5・6学年の複数教科において実施する。また、全学年において専科教員による音楽科、図画工作科、第3・4・5・6学年の外国語科の授業を実施する。段階的な教科担任制の導入によって、中1ギャップの解消に努める。
- ⑥ 教職の魅力や教育の質の向上を目指した働き方改革の実現に向け、ICTを活用した校務のAI・デジタル化を更に推進する。
- ⑦ 「学校2020レガシー」として、「ボランティア・マインド」「障害者理解」「スポーツ志向」「日本人としての自覚と誇り」「豊かな国際感覚」の5つの資質の育成を目指した取組を継承し、発展させる。
- ⑧ 合唱団の活動を通して、音楽を愛する心情と感性を育てるとともに、豊かな情操を涵養する。
- ⑨ 地域学校協働本部と連携した始業前の朝遊びを週3回設定し、児童の継続的な体力向上を図る。

5 学校教育目標達成のための具体的方策

	中期経営目標	短期経営目標	目標実現のための具体的方策
豊かな心の育成	いのちと心の教育 ○どの命も等しく大切にでき、他者に対する慈しみや思いやりの心を育てる。	○全ての教育活動において、子供相互、子供と教職員とのかかわりを重視し、「共感すること」によってよりよい人間関係の構築を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・「他者に対する共感」を基盤とした指導を徹底し、場や相手に応じた態度や言葉遣い、相手を尊重した行動ができるようにする。 ・協働的な学びの場面を意図的に設定し、子供たちによる相互評価の機会をより多様に設定していくことで、自己認識を深めさせる。 ・教職員間やSC、SSWとの連携を密にし、子供の気持ちに寄り添った共感的理解に努める。 ・ユネスコスクール活動の一環として、個別の人権課題を学び、差別や偏見、いじめを許さない態度や、共生社会の実現に向けての自らの行動について考えさせる。
	自己受容感と規範意識の醸成 ○自己受容感を高め、正しい規範意識に基づく社会性を養う。	○道徳科の時間を要として、全教育活動において道徳的心情を育て、正しい規範意識と道徳的実践力を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ・「子供が考え議論する」道徳指導を計画的に実施し、自己の生き方についての考えを深めさせる。 ・生活目標やクラス目標の定期的な評価をとおして、子供の自己受容感を高めつつ、規範意識の醸成を図る ・当番活動、委員会活動等を『他者貢献の活動』として位置付け、活動の意義を全学級・学年で共有しながら、活動のさらなる充実を図る。 ・3年以上における「hyper-QU」を活用した学級集団作りを行い、その活用を図る。
確かな学力の育成	あくなき授業改善 ○子供を主体者とした授業を通して、基礎的・基本的な学力を確実に定着させるとともに、よりよく生きる教養を身に付けさせる。	○教材や指導法を工夫し、子供を主体者とした授業を展開する。	<ul style="list-style-type: none"> ・「個別最適な学びと、協働的な学び」の実現を重点課題として、授業構成の工夫、ICTの活用、指導の個別化・学習の個性化の推進、協働的な学びの推進を柱とした授業研究を進める。 ・他者と協働していく力、自律的に判断する力、自己実現を図る力等を育成するため、課題発見・問題解決型の個別最適な学び、対話的で協働的な学びを意図的・計画的に実施する。 ・3年以上で算数習熟度別指導、5、6年で教科担任制を実施し、教科における資質・能力の向上を図る。
		○意図の明確な授業を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・週ごとの指導計画を確実に立案、提出し、管理職の指導を受けることで、毎時間の指導の意図を明確にする。 ・授業改善推進プラン、各教科の指導計画を活用した授業を展開するとともに、学力調査の結果分析や子供の実態をもとに指導内容に柔軟な修正を加える。
健やかな体の育成	運動の日常化と健康・安全への意識の向上 ○健康な心と体づくりに取り組み、健全な生活習慣を身に付けさせる。	○年間を通して運動に取り組む機会を設定し、運動の日常化、習慣化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・体力テストの結果に基づいた、体力向上プランを作成し、体育授業の改善を図る。 ・年間を通した取組として、なわとび、体育授業開始5分間の「体力向上のための時間」を実施する。また、投能力、持久力、握力の向上を図る。 ・ブラインドサッカー教室や笑顔と学びの体験活動プロジェクトを活用し、アスリートとの直接的な触れ合いの中で、スポーツマインドの醸成を図る。
		○心身の健康に対する基礎的理解を進め、健康で安全な生活に向けて自ら努力できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・健康診断等の保健行事についての事前・事後指導を徹底する。 ・感染症対策への取組を契機として、行動体力とともに、子供の危機回避能力をはじめとした防衛体力の向上も視野に入れた安全指導の充実を図る。 ・食育を推進し、体づくりとともに、豊かな心情を育てる。

	中期経営目標	短期経営目標	目標実現のための具体的方策
特色ある学校づくり	本郷オリジナルの教育 ○「生きる力」とともに「よりよく生きる力」を身に付けさせる。	○深い学びの実現と豊かな体験活動を中心とした「本郷オリジナル」の教育を意図的・計画的に推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・思考力、判断力、表現力の育成を中心にした「深い学び」の実現と、学びを支える豊かな体験活動を教育活動の両輪として位置付け、意図的・計画的な指導を進める。 ・教科指導における専科担任化を実施し、授業の質的向上を図るとともに、多様な人との関わりの機会とする。 ・合唱団の活動を通して、音楽を愛する心情と感性を磨くとともに、豊かな情操を涵養する。 ・異年齢集団の活動や隣接の幼稚園・中学校との連携を活性化し、主体性、社会性を養う。
	価値観をつくる ○各教科における言語活動の充実を図る。	○「自らの価値観を磨き・つくる」ための諸活動に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・「言葉を吟味する」ために「書く」活動の充実を図る。 ・読書を「語彙を豊かにし、言語感覚を育む活動」として位置付ける。図書室や各階の図書コーナー、学級文庫等の言語環境を整え、豊かな読書生活を支援する。 ・自他の価値を尊重して多様な人々と協働していくための協働的活動の充実を実践的に研究する。 ・各教科において、「個別最適な学び」「協働的な学び」の場を工夫して設定し、意見の相互交流を通して自らの感覚を磨くとともに、プレゼンテーション能力の向上を図る。
	地域とともに歩む学校 ○コミュニティ・スクールとして地域と連携した教育活動を推進する。	○地域学校協働本部等と連携し、地域と一体となって教育活動を推進し、開かれた学校づくりを進める。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会、地域学校協働本部、家庭や地域を学校の応援団とし、その積極的な活用を図る。 ・「社会に開かれた教育課程づくり」を目指し、SDGsの達成に向けた教育活動としてユネスコスクール活動の充実を図る。 ・学校ホームページの充実に取り組み、校内外の状況や学校の対応・考え方について情報発信することにより、保護者・地域との連携の充実を図る。
	意図的・計画的な特別支援教育 ○特別支援教育の充実を図る。	○全校体制で特別支援教育を展開する。	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援校内委員会を中心に、関係諸機関との連携を強化し、一人一人の子供の実態に即した支援、指導に取り組む。 ・個別指導計画や個別の教育支援計画を作成、活用することにより、特別な支援を必要とする子供の生活や学習上の困難を改善、克服し、集団への適応を図る。 ・「学びの教室」指導教員と学級担任、専科担任の効果的な連携を図り、組織的な指導を実施する。「学びの教室」における指導内容の在籍学級における積極的活用を推進する。 ・特別支援教育担当指導員等、サポートスタッフ活用システムの改善を図ることで、学習や生活に困難さを抱える子供たちの教室の活動や、学級の健全な経営に対する継続的支援を実施する。
	教育環境整備 ○学ぶ環境を整え、子供の健全育成を図る。	○安全で学びやすい教育環境を整える。	<ul style="list-style-type: none"> ・校舎内外の整理・整頓に努め、子供が心地よく学べる環境を整える。特に教室内での音量には十分配慮する。 ・ICT推進リーダーを中心として、ICT機器を活用した指導を推進する。また、文京区教育センターと連携したプログラミング教育を実施する。 ・教室増設工事、その他施設・設備の補修については、子供の学習活動を優先して実施方法を決定し、子供、保護者、地域に対して速やかに周知する共に、その理解・啓発を図る。 ・不登校児童の安心と解消に向けた「かけはしルーム」を設置し、活用する。